町長コラム

町長室からこんにちは

No.105

一宮町長
馬淵 昌也

4月16日から19日まで、釣ヶ崎海岸で、JPSA所属の選手による「さわかみ S. LEAGUE 24-25 GRAND FINALS」というサーフィン大会が開催されました。わたくしは、開会と表彰に伺いましたが、大変驚くこととなりました。

まずは、一宮町の方が大勢上位に入賞され、主要種目の優勝をほぼ独占しておられたことです。ショートボード男性は塚本勇太さん、女性は野中美波さんで、2位、3位にも、大原洋人さんや川合美乃里さんほか、一宮の有力選手がひしめいておられました。さらには、年間総合チャンピオン、日本一の座についたのもショートボードでは、男性が稲葉玲王さん、女性が中塩佳那さんでした。

この大会は、日本全国のプロサーファーが一堂に会して技を競う大会で、地方大会ではありません。もちろん、有力選手が全員参加というわけではないでしょうが、全国からのつわものが競う中で、一宮町の優越度が特別際立って感じられた大会でした。改めてサーフタウン一宮の強烈なパワーを実感しました。

さらに驚いたのは、スポンサーのさわかみ投信社長の澤上龍さんが、サーフィンの振興のために、来年から優勝賞金を現在最高額の男性ショートボードのレベルに他の主要種目も引き上げる、とご挨拶でおっしゃったことです。サーフィンがスポーツとして、スポンサーが少ないという悩みをよく伺いますが、澤上さんは、賞金アップでサーファーのやる気を後押ししようということでした。

もうひとつ驚いたのは、わたくしが開会に際して、ファーストライドを要請されたことです。3回目のサーフィンでしたが、サポートに田中英義さん、オリンピアンの大原洋人さんと稲葉玲王さんという、町のサーフィン界の巨星の皆さんがご一緒してくださったのです。なんとか転倒せずに板に乗り、責めをふさぐことができましたが、光栄なことと感じ入りつつ、ほっとしました。

色々と驚きの多い、忘れがたいイベントでした。